

【専門教育科目/看護の基本】

科目名		ナンバリング		区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護倫理				必修	1	3	前期
担当教員		研究室		電子メール ID		オフィスアワー	
小林 美雪		407		m.kobayashi		授業終了時、水曜日 16:00～17:00	
授業の目的・概要		医療・看護に携わる者は、人間の基本的人権を尊重し、個人の尊厳を遵守しなければならない。本科目では看護倫理の背景、専門職と倫理、倫理概念や倫理原則の知識と共に、看護職者が直面する倫理的課題へのアプローチの方法について学ぶ。また、医療倫理や看護倫理の今日的課題について考え、看護職者としての倫理的態度を養うことを目的とする。					
授業形式・方法		☒ 対面授業 ☐ 遠隔授業(双方向型) ☐ 遠隔授業(自主学習)	☒ 講義 ☐ 実習 ☐ 実技	☐ PBL ☒ グループワーク ☐ その他 ()	☒ 反転授業 ☒ プレゼンテーション	☐ ディスカッション・ディベート ☐ 実習・フィールドワーク	
学習上の助言		看護職として倫理を学ぶ意味を理解するために、事前課題に取り組み、積極的に講義・ディスカッションに参加すること。					
教科書		看護実践の倫理 第3版 /著:サラ・T.フライ 著訳:片山範子 他 /日本看護協会出版会 /2010					
参考書		看護者の基本的責務2020年度版 /監:手島恵,日本看護協会 /日本看護協会出版会 /2020					
外部教材		特になし					
学生が達成すべき行動目標					関連卒業認定・学位授与方針		
①	医療・看護倫理の成立過程と看護倫理の重要性について説明できる。				HSU(1),NS(1)(3)		
②	倫理の基本的な知識について説明できる。				HSU(1),NS(1)(3)		
③	医療・看護倫理・生命倫理とは何か説明できる。				HSU(1),NS(1)(3)		
④	臨床で遭遇する倫理的課題について説明できる。				HSU(1),NS(1)(3)(4)		
⑤	倫理的課題の解決方法を説明できる。				HSU(1),NS(1)(3)(4)		
授 業 計 画							
回	学習内容等			授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	医療・看護倫理の基本的知識を学習する。			講義	事前課題：教科書 p19～25、p28～33 を読み「倫理とは」「倫理の原則」についてまとめる。	4	
2	医療・看護倫理の成立過程と倫理の重要性について学習する。			講義・グループディスカッション・プレゼンテーション	事後課題①：提示された事例を基に自己の考えをまとめる。	4	
3	医療・看護倫理の成立過程と倫理の重要性について、看護倫理における価値、価値の対立、看護業務と法、守秘義務等の観点から学ぶ。			講義	事前課題：p7～15 を読み、「価値」「価値の対立」についてまとめる。	4	
4	医療・看護倫理、生命倫理の成立背景とアドボカシー、責務と責任、協力、ケアリング、インフォームド・コンセント、身体抑制等の観点から、倫理の重要性について学ぶ。			講義・反転授業	事前課題：教科書 p49～58 を読み、「アドボカシー」「ケアリング」等についてまとめる。 事後課題②：提示された事例を基に自己の考えをまとめる。	4	
5	事後課題②を基に、アドボカシー、責務と責任、協力、ケアリング、インフォームド・コンセントについて学ぶ。			講義・反転授業	事前課題：教科書 p49～58 を読み、「アドボカシー」「ケアリング」等についてまとめる。	4	
6	医療・看護倫理、生命倫理の現実的課題について、事例③を基に、情報管理,院内感染,患者対応等について学ぶ。			講義	事後課題③：提示した事例についての自己の考えをまとめる。「テキスト事例 33」	3	
7	医療・看護倫理、生命倫理の現実的課題について、事例③を基に、専門職としての倫理的行動について学ぶ。			講義・GW プレゼンテーション	事後課題：これまでの授業の振り返りを行う。	3	
8	これまでの講義で学んだ知識を基に、課題③事例の倫理的課題の課題解決のグループワークを行う。7 講までの授業内容を振り返る。			講義・GW プレゼンテーション	同上	4	
試	達成度評価・評価のポイントを参照						

【専門教育科目/看護の基本】

達成度評価							
総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		50	50	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	20	10	0	0	0	30
	思考・推論・創造する力	20	30	0	0	0	50
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	10	10	0	0	0	20
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	倫理および看護倫理の基本的な知識を 50%で評価する。			試験後に助言する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
レポート	①	✓	課題①②を各 10%、課題③を 30%で評価する。			授業内で共有する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
備 考							
他 担 当 教 員		なし					
教 員 の 実 務 経 験		看護師として 23 年の臨床経験を有する。					
実践的授業の内容		看護師として病院（ICU・循環器内科・呼吸器内科・脳神経外科・精神科等）の勤務経験と保健師資格を有する教員が、その経験と知識を活かし、看護倫理の基本的な知識の修得を目指します。					
そ の 他		・試験への「教科書持ち込み」は不可とする。 ・感染症の状況などの社会情勢により再度シラバスの変更があることも考えられるが、その際は随時、お知らせする。					